



令和2年度 学部学生による自主研究奨励事業
研究成果報告書

世界遺産登録およびコロナ禍がもたらす “古墳ブーム”の変化と文化財活用の将来像

大阪大学文学部考古学研究室
令和2年度学部学生自主研究グループ
(石東 礼・松岡寿々代)

目 次

第1章 本研究の目的と経過	1
1. 本研究の目的	1
2. 研究の経過	1
3. 主な活動履歴	2
第2章 「古墳ブーム」の実態調査	3
1. 各種媒体からみた古墳ブームの推移	3
（1）新聞記事の調査	3
（2）テレビ番組の調査	4
（3）書籍の調査	7
（4）SNSの動向の調査	11
2. 百舌鳥・古市古墳群の実態調査	12
（1）堺市博物館におけるインタビュー調査	12
（2）羽曳野市におけるアンケート調査	13
（3）藤井寺市におけるアンケート調査	14
（4）河内こんだハニワの里・大蔵屋におけるインタビュー調査	15
（5）その他における聞き取り調査	17
（6）調査のまとめ—百舌鳥・古市古墳群—	19
3. 愛知県・岐阜県における活動の実態調査	20
（1）体感！しだみ古墳群ミュージアムにおけるインタビュー調査	21
（2）愛知・岐阜における古墳活用事例の現地調査	24
（3）小 括	24
第3章 研究のまとめ—古墳の現代的活用と将来展望—	27
1. 調査成果の総括	27
2. 百舌鳥・古市古墳群における文化財活用の展望	27
おわりに	30

例 言

1. 本書は大阪大学における「令和2年度 学部学生による自主研究奨励事業」に採択された研究課題『世界遺産登録およびコロナ禍をもたらす“古墳ブーム”の変化と文化財活用の将来像』（アドバイザー教員:上田直弥）の成果報告書である。
2. 本書の執筆・編集はアドバイザー教員の指導のもと石東礼、松岡寿々代が行った。
3. 本論文の作成にあたり、考古学研究室の福永伸哉教授、高橋照彦教授をはじめ以下に挙げる多くの方々にご協力を賜った。記して感謝申し上げる。（順不同。所属は2020年度当時）
橘泉氏・肥田翔子氏（堺市博物館）／河内一浩氏（羽曳野市陵南の森総合センター）／山田幸弘氏・泉真奈氏（藤井寺市教育委員会文化財保護課）／朝野亜紀子氏（河内こんだハニワの里大蔵屋）／濱口真哉氏（名古屋市教育委員会文化財保護室）／松井致也子氏（体感！しだみ古墳ミュージアム）／大塚友恵氏（青塚古墳ガイダンス施設）／仁徳天皇御陵拝所前のボランティアガイドの皆様／こ・ふんカフェの皆様／羽曳野市観光案内所の皆様／藤井寺市観光案内所の皆様／熱田神宮公園管理事務所の皆様／大垣市歴史民俗資料館の皆様（順不同）

第1章 本研究の目的と経過

1. 本研究の目的

報告書の執筆現在（2022年3月）でも新型コロナウイルスは地球規模で猛威を振るっている。ワクチン接種の効果やウイルスの弱体化により次第に事態は好転しはじめ、世界は「ウィズコロナ」、「ポストコロナ時代」、「ニュー・ノーマル」といった新たな局面を迎えつつある。振り返ってみれば、ここ数年で人々も社会も大きく変化した。文化財活用の方法も例外ではない。大阪府に所在する百舌鳥・古市古墳群は、2019年7月に世界遺産に登録され、2020年の3月以降現在まで続くパンデミックという2つの大きな社会変化を経験した。この間、古墳群の活用方法は社会の動きとともにどのように変化したのだろうか。また、全世界に人類全体の遺産として認められた百舌鳥・古市古墳群の歴史的価値は、今後どのように発信、伝承されうるのだろうか。

前者の問いを検討するにあたり、「古墳ブーム」という社会現象を取り上げたい。古墳ブームとは、古墳に関するグッズやスイーツ、歌などがメディアに多く取り上げられるなど、一般の人々が古墳に関心を持つことを指す。この現象については、大阪大学が主催する平成29年度「学部学生による自主研究奨励事業」において考古学研究室が調査を行い、成果をまとめた『古墳ブームによる地域活性化』という先行研究がある。この研究は大衆の古墳人気の上昇する実態を多方面から明らかにし、地域振興に古墳ブームを活用する動きをさらに活発化させる必要性や歴史遺産としての古墳を将来にも継承していく重要性を主張する、古墳ブームをいち早く捉えた興味深い内容であった。しかしながら、調査が行われた2017年以降、百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録されるという大きな出来事があり、加えて新型コロナウイルスの感染拡大で社会が変化したことを踏まえ、古墳ブームの実態も一変したのではないかと考えられた。

以上のことから、本研究では「古墳ブーム」をキーワードに据え、百舌鳥・古市古墳群を主な研究対象として、2017年（平成29年）の先行研究のその後の文化財活用の状況を調査し、今後の活用の在り方を考察、それらを踏まえた具体性のある活用プランの例示を目的として設定した。そのための小課題として、（1）百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録という大きな出来事がもたらした古墳ブームの変化と、（2）新型コロナウイルスの感染拡大におけるブームの現状を考慮した上で、（3）今後の古墳ブームの発展と地域への貢献の方向性を追究することが挙げられる。特に（1）については、平成29年度「学部学生による自主研究奨励事業」において考古学研究室が発表した『古墳ブームによる地域活性化』に基づいた比較研究を、様々な媒体を通じて検討する。2019年7月6日に百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録されたこと、また2020年上旬からの新型コロナウイルス感染拡大が与えた影響を調査することは、今後のブームの展望とそれに伴う文化財の新たな活用方法を模索するうえで重要だと考えられる。

2. 研究の経過

これまでのブームの盛衰を調査するため、社会での情報発信・獲得ツールである、マスメディアでの取り上げられ方を新聞記事とテレビ番組、書籍の発売状況、インターネット上の発信、イベントの開催、グッズの販売状況などの資料収集を通じて分析するとともに、古墳に関わる現場で仕事をされている方々の“肌

感”を調査するため博物館、市町村の文化財課、古墳グッズの販売店など、現地に赴き直接聞き取り調査を実施した。そしてこのなかで課題として浮かび上がった、古墳ブームをいかにして持続させ、さらに文化財の活用を含めた保護を実現していくかという問題について、他地域（大阪府以外）の取り組みに視点を移し、新たな着目点を見出すために参考になる愛知県と岐阜県の取り組みを取材するに至った。

以上の結果の分析と検討を通して、今日コロナ禍を経験して一変した社会や人々の情報のアクセスの仕方を踏まえ、いかに百舌鳥古市古墳が保存活用され、広く人々の間で価値のある文化財としての地位を確立し続けられるかを模索した。

3. 主な活動履歴

2020年8月11日 初回ミーティング

2020年9月15日 第2回ミーティング

2020年10月4日 百舌鳥古墳群実地調査と堺市博物館インタビューの実施

2020年10月31日 古市古墳群実地調査

2020年11月28／29日 愛知県・岐阜県での実地調査

2021年2月15日 第3回ミーティング

2021年2月19日 令和2年度 学部学生による自主研究奨励事業発表会

2021年9月18日 国際連携室主催国際セミナー“International Exchange During the COVID-19's Post-vaccination World: What would be the Future of Study Abroad Programs?”にて概要を発表

※上記のほか、取得データの分析や補足の現地調査（遺跡・博物館等）を適宜実施した。



図1 現地調査のようす

第2章 「古墳ブーム」の実態調査

1. 各種媒体からみた古墳ブームの推移

前章で述べたように、本研究においてはまず、これまでの古墳ブームの実態を先行研究に基づいて、再検討・追加調査・異なる観点からの情報収集を行うことが不可欠である。そこではじめに新聞3社と全国版テレビ番組、書店での発売部数ランキング等を対象に、関連記事等の基本調査を実施した。その際には、古墳ブームの変化要因と影響を捉えるため、百舌鳥・古市古墳群に関する出来事とも照らし合わせた。

(1) 新聞記事の調査

今回は朝日新聞、日経新聞、読売新聞の全国版記事を各新聞社のデータベースを使って調査した。それぞれ「世界遺産 古墳」のキーワード検索にかけ、それらの語を含む記事の件数を2000年1月～2020年12月において月別にグラフ化した(図2)。

その結果、2000年以降、月に多くても5件程度で全くない月も多く見られたが、2015年頃から次第に月に約10件程度に増えていることがわかった。2017年5月と8月に全ての新聞社の記事で20件弱に急上昇をみせる。記事の内容を確認すると、大阪府知事が百舌鳥・古市古墳群を世界遺産候補に推薦したことや登録に際しての課題なども複数報道されているが、2017年7月9日に無事世界遺産登録を決めた『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群についての報道や北海道・北東北の縄文遺跡群が政府の推薦を目指すという記事も多く見られた。国内全体として歴史遺産に注目が集まった時期であったことがわかる。2019年5月は読売新聞で33件と最高記録に達し、6月も各社10件を超える記事が掲載された。これは百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録が確実視されたことによるもので、登録までの地元の人々の活動、世界遺産効果に沸く地元の声や古墳をモチーフにしたグッズなどが報道された。世界遺産登録が決まった日を含む2019年7月は日経新聞が33件の記事を掲載するなど、各社20以上の記事で世界遺産登録を伝えた。登録1か月後から緩やかに記事数は減っていったが、2020年1月から5月にかけての激減はコロナウイルス感染拡大の影響が大きかったのではないかと推察される。その後登録1周年を記念する記事が8月頃をピークに増えた。

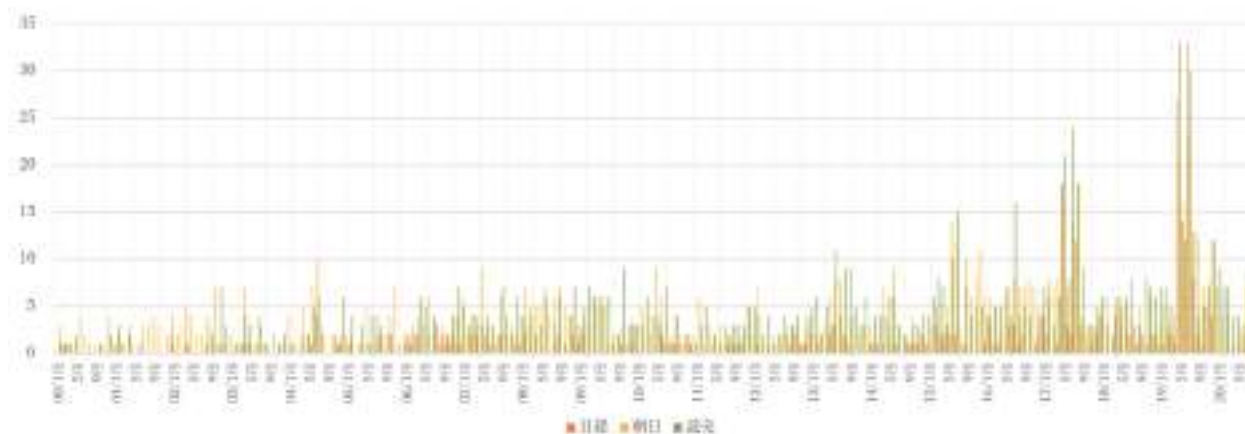
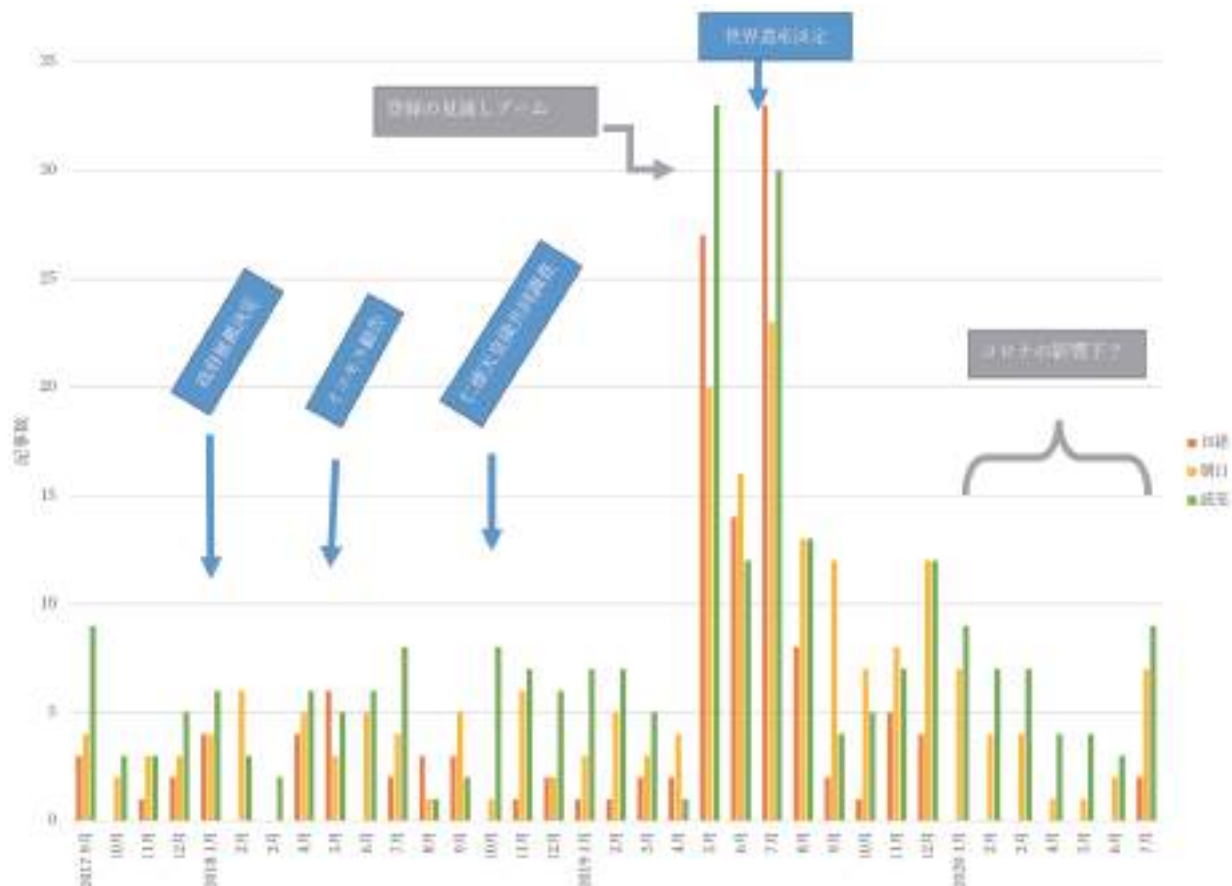


図2 2000年1月～2020年11月「古墳 世界遺産」でヒットする新聞記事



※新聞記事には百舌鳥古市古墳群に直接関係のないものも含まれる。ただし「世界遺産」と「古墳」の言葉は含んでいる。
例) 堺市長選挙の記事

図3 各紙における新聞記事数の推移

次に記事の内容として読売新聞を2018年から2020年の期間で調査した(図3)。2018年は世界遺産登録関係のニュースが主で社説と特集として11月と12月に古墳や文化財について紙面が割かれた。2019年の5月から7月はニュースとともに少し踏み込んだ内容や有識者のインタビューも増え、古墳をめぐる新聞社のツアーなども見られた。8月、9月には登録後に増えてきた観光面の問題の議論についての記事が多かった。

このように百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録前後における新聞記事数の変化から、人々が古墳群にどれほど関心を持ってきたかが明らかになった。新聞記事の数がそのまま古墳ブームに直結するかは検討の余地があるが、少なくとも世界遺産登録時期に古墳に国内の注目が集まったことは確かであろう。

(2) テレビ番組の調査

テレビ番組も(1)の新聞記事と同様に「世界遺産 古墳」のキーワードで検索し、NHKと民放テレビそれぞれで番組の内容とともに集計した。検索時期は、NHKは2017年9月～2020年12月まで、民放テレビは2018年1月～2020年12月までの番組をアーカイブとテレビ紹介情報で調査した(表1)。

まずNHKの番組については、2017年・2018年頃には百舌鳥・古市古墳群が世界遺産へ推薦されたというニュースなどについて担当解説員が深く解説するといった比較的真面目な番組が多く、放送時間からも仕事から帰宅した社会人を視聴対象として制作されたと推測できる。2019年5月には世界遺産登録の見通しがたったということで、複数の番組で百舌鳥・古市古墳群が紹介された。『ブラタモリ』や『歴史秘話ヒ

表1-1 番組欄検索「世界遺産 古墳」検索結果一覧 (NHK)

初回放送日	チャンネル	番組名	トピック名
2017/9/28	デジタル総合	くらし☆解説	「巨大古墳 世界遺産推薦へ」
2017/12/14	BS プレミアム	英雄たちの選択	「古代史ミステリー 巨大古墳の国際戦略～半島の危機と倭の五王～」
2018/2/7	デジタル総合	くらし☆解説	「世界遺産推薦の巨大古墳“保存の原点”」
2018/2/14	デジタル総合	視点・論点	「市民が守った古墳 世界遺産への道」
2018/4/30	ラジオ	ラジオ特集	「大阪へ行こう！！」
2019/2/21	デジタル総合	所さん！大変ですよ	「摩訶不思議！“見えない世界遺産”の謎」
2019/5/14	デジタル総合	ニュースウォッチ9	
2019/5/25	デジタル総合	プラタモリ	「古墳の町・堺～巨大古墳は日本の歴史を動かした！？～」
2019/5/26	デジタル総合	俳句王国がゆく	「大阪府羽曳野市」
2019/5/29	デジタル総合	歴史秘話ヒストリア	「巨大古墳誕生 世界遺産目前！百舌鳥古市古墳群」
2019/7/2	ラジオ	Nらじ	「百舌鳥・古市古墳群 その価値と今後の課題」
2019/7/5	デジタル総合	ニュースきょう一日	「古墳群は世界遺産に？」
2019/7/7	デジタル総合	NHK ニュースおはよう日本	「大阪から初！世界遺産登録」
2019/7/18	デジタル総合	クローズアップ現代+	「新発見続々！世界文化遺産 古墳ミステリー」
2019/12/3	BS1	聖火ロード 5min	「大阪！世界遺産の百舌鳥・古市が見守る」
2020/2/27	BS プレミアム	偉人たちの健康診断	「古墳は健康タイムカプセル」
2020/3/24	デジタル総合	あなたも絶対に行きたくない！ミステリアス古墳スペシャル	

『秘史のケンミンショー』といった人気歴史番組は、日本中の多くの歴史ファン、またそれ以外の人々が百舌鳥・古市古墳群に興味を持つきっかけを作っただろう。2019年7月の登録決定の直前直後は全国のニュース番組だけでなく『クローズアップ現代+』にも取り上げられ、古墳の専門家を招いてその価値や今後の課題を伝えるなどやや学術的な側面も深掘りして報道されるようになった。2020年以降は、頻度は高くないものの継続して古墳をテーマにした番組が放送されるが、内容は歴史から健康の秘訣を学ぶ番組や全国の古墳をめぐるといったより一般向けの、古墳の知識をそれほど持たない人でも親しみやすい、大衆向けの内容と変化した。また紹介される古墳は百舌鳥・古市古墳群だけでなく全国各地の特色ある古墳へと変化したため、人々の認識は百舌鳥・古市古墳群のブームから日本の古墳ブームに広がったのではないかと考えられる。

次に民放のテレビ番組については、各テレビ局で2018年から主にニュース番組で百舌鳥・古市古墳群の登録までの過程が報道されていたが、NHKと同様に2019年5月にはICOMOS（イコモス）の勧告により登録がほぼ決定したというニュースが、少なくとも地上波5局で合計40回報道された。登録が正式に決まった2019年7月に再び番組数は上昇し、そのブームが落ち着いてくる8月から12月には世界遺産を祝福する報道よりも観光面と古墳そのものに焦点を当てた報道が多く、古墳グッズや古墳群を紹介する番組や特番も放送された。2019年12月から翌年2020年の2月にかけては、クイズ番組に問題として出題されたり、『秘史のケンミンショー』のようなバラエティ色の強い番組で取り上げられるなど、より一般の視聴者が興味を持つような報道のされ方に変化した。その後は旅番組で大阪が特集された際や世界遺産の番組の中で触れられるなど、頻度と内容の濃さには低下が見られる。

このようにテレビ番組の数を検討すると、2019年5月と2019年7月を大きなピークとしてブームが存在したことがわかる。取り上げられ方としては、登録の見通しと決定の知らせを伝えるニュースとそれを受けた地元の喜びの声やこれまでの活動、百舌鳥・古市古墳群の基本的情報や学術的な価値、一般の人々にも親しみやすい番組や視点からの紹介といった順序で、現在にいたるまで百舌鳥・古市古墳群はテレビで取り上げられている。しかし2つのピークを超えた後は、百舌鳥・古市古墳群だけではなくより広義の「古

表1-2 番組欄検索「世界遺産 古墳」検索結果一覧(民放1)

放送日	放送局	番組名	内容
2018/1/9	テレビ東京	M プラス 11	ニュース政府推薦決定
2018/2/26	フジテレビ	世界の村のどエライさん	仁徳天皇陵解説
2018/7/13	日本テレビ	スッキリ	百舌鳥古市古墳群登録を目指す
2018/10/28	TBS	サンデーモーニング	ニュース共同調査
2018/11/12	TBS	N スタ	古墳で耐震工事ができない
2019/5/14	TBS	TBS NEWS	ニュースイコモスの勧告
	日本テレビ	Oha! 4 NEWS LIVE	〃
	TBS	はやドキ!	〃
	フジテレビ	めざましテレビ全部見せ	〃
	テレビ朝日	グッド!モーニング	〃
	TBS	あさちゃん!	〃
	日本テレビ	ZIP!	〃
	テレビ東京	News モーニングサテライト	〃
	フジテレビ	めざましテレビ	〃
	フジテレビ	情報プレゼンター とくダネ!	〃
	日本テレビ	スッキリ	〃
	テレビ朝日	大下容子ワイド!スクランブル	〃
	TBS	ひるおび!	〃
	テレビ東京	昼サテ	〃
	日本テレビ	NNN ストレイトニュース	〃
	TBS	ゴゴスマ~GOGO! Smile! ~	〃
	日本テレビ	情報ライブミヤネ屋	〃
	TBS	N スタ	〃
	フジテレビ	Live News it!	〃
	日本テレビ	news every	〃
	テレビ東京	ゆうがたサテライト	〃
	テレビ朝日	スーパーJチャンネル	〃
	テレビ朝日	報道ステーション	〃
	日本テレビ	NEWS ZERO	〃
	テレビ東京	ワールドビジネスサテライト	〃
2019/5/15	日本テレビ	Oha! 4 NEWS LIVE	ハニワ課長のコメント
	TBS	はやドキ!	各所反応
	テレビ朝日	グッド!モーニング	〃
	フジテレビ	めざましテレビ	〃
	日本テレビ	ZIP!	〃
	フジテレビ	Live News it!	〃
2019/5/18	TBS	サタデープラス	〃
	日本テレビ	ウェークアップ!ぶらす	〃
	テレビ朝日	中居正広のニュースな会	〃
	テレビ朝日	サタデーステーション	〃
	TBS	新・情報7 days ニュースキャスター	〃
2018/5/19	TBS	サンデーモーニング	〃
	TBS	アッコにおまかせ	〃
	テレビ朝日	ビートたけしのTVタックル	〃
2019/5/30	日本テレビ	スッキリ	グルメまりこふんさん
2019/6/1	日本テレビ	Going! Sport&News	聖火リレー
2019/6/3	日本テレビ	ZIP	〃
	日本テレビ	スッキリ	〃
2019/6/13	日本テレビ	ヒルナンデス!	仁徳天皇陵旅
2019/6/14	テレビ朝日	グッド!モーニング	世界遺産特集
2019/6/15	テレビ朝日	池上彰のニュースそうだったのか!!	世界遺産の目的
2019/7/5	TBS	ひるおび!	世界遺産委員会
	TBS	N スタ	〃
	テレビ朝日	報道ステーション	観光客誘致
	TBS	News23	委員会審査
2019/7/6	フジテレビ	めざましどようび	委員会審査
	テレビ東京	TXN ニュース	〃
	フジテレビ	FNN Live News it!	登録決定の速報

イコモスの勧告
直後の5月に集中

世界遺産
登録決定

表1-3 番組欄検索「世界遺産 古墳」検索結果一覧(民放2)

2019/7/6	テレビ朝日	スーパーJチャンネル	登録決定の速報
	TBS	報道特集	〃
	TBS	新・情報7 days ニュースキャスター	〃
2019/7/7	日本テレビ	Going! Sport&News	〃
	フジテレビ	S-PARK	〃
	TBS	TBS NEWS	〃
	テレビ朝日	サンデーLIVE	〃
	フジテレビ	FNN ニュース	〃
	日本テレビ	NNN ニュースサンデー	〃
	TBS	サンデーモーニング	〃
2019/7/8	日本テレビ	Oha! 4 NEWS LIVE	ハニワ課長コメント
	フジテレビ	めざましテレビ全部見せ	ニュース
	TBS	あさちゃん!	グッズ
	日本テレビ	ZIP	ニュース
	TBS	ビビット	観光客誘致
	フジテレビ	Live News it!	周辺の見どころ
2019/7/9	TBS	はやドキ!	アイドルとハニワ課長のMV
2019/7/15	TBS	ひるおび!	観光客誘致
	フジテレビ	Live News it!	〃
2019/8/1	日本テレビ	秘密のケンミン SHOW	古墳特集
2019/8/14	テレビ東京	昼めし旅	カフェ
2019/8/17	テレビ朝日	池上彰のニュースそうだったのか!!!	上半期まとめて古墳についても解説
2019/10/25	テレビ東京	ワールドビジネスサテライト	古墳10選
2019/11/9	TBS	世界ふしぎ発見!	レキシさん大仙古墳を解説
2019/11/10	日本テレビ	所さんの目がテン!	古墳時代の生活を体験
2019/12/15	TBS	世界遺産「超巨大! 仁徳天皇陵のナゾ」	古墳群を紹介する特番
2019/12/23	テレビ朝日	クイズプレゼンバラエティーQさま!!!	古墳群の問題が出題される
2019/12/26	日本テレビ	秘密のケンミン SHOW 2時間SP!	大阪超でっかい古墳
2020/1/11	テレビ朝日	サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん	世界遺産マイスターの男の子が仁徳天皇陵を解説
2020/1/25	フジテレビ	超逆境クイズバトル!! 99人の壁	大仙両古墳のクイズが出題される
2020/2/7	日本テレビ	クイズ あなたは小学5年生より賢いの?	大仙古墳のクイズが出題される
2020/2/22	テレビ朝日	池上彰のニュースそうだったのか!!!	天皇誕生日に絡んで古墳も登場
2020/5/7	日本テレビ	秘密のケンミン SHOW 極!	大阪特集
2020/5/30	テレビ朝日	サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん	世界遺産マイスターの男の子が仁徳天皇陵を解説
2020/6/24	テレビ東京	昼めし旅	大阪府堺市カフェ
2020/7/12	TBS	世界遺産	空から見た古墳群

※新聞記事には百舌鳥古市古墳群に直接関係のないものも含まれる。ただし「世界遺産」と「古墳」の言葉は含んでいる。例)堺市長選挙の記事

テレビは全て百舌鳥古市古墳群関連のもの。

※新聞記事は全国版・地域版の両方で検索できたが、テレビ番組はNHK クロニクル番組表ヒストリーと価格.com テレビ紹介情報で収集したデータのため、地方版が含まれていない。

墳」として取り上げられることが主になった。また、調査前には2020年1月頃からの新型コロナウイルス感染拡大の影響が見られるのではないかと予想していたが、今回の調査結果からはその影響が大きく出たとは判断できなかった。考えられる要因として、テレビ番組の場合は新聞記事とは異なって、番組の製作開始時期と放送の時期に大きな差が出るということが影響した可能性もあるだろう。

(3) 書籍の調査

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録の前後の、世間一般の古墳への関心を探るため、書籍の発売部数のランキングを調査した。調査対象は、幅広い書籍の種類を扱う紀伊國屋ウェブサイトの検索欄である。

まず、キーワード検索欄で「古墳」と調べ、「売れている順」で表される検索結果3037件のうち、上位50件を挙げる(表2)。調査日は2020年8月31日である。ジャンル分けとして、「雑誌・ガイドブック:a」「学

表2-1 紀伊國屋書店ウェブサイト検索欄「売れている順」検索結果一覧(1)

*検索ワード「古墳」の検索結果3037件のうち、2020/08/31時点で「売れている順」の上位50件を挙げる。

*古墳に関する話題が含まれている書籍を扱うが、「日本史」や「日本の歴史」といった歴史全般の概説を扱った書籍は該当しないこととする。

*雑誌・ガイドブック：a 学術書・新書：b 図鑑：c 小説：d その他：e の符号を記し、どのジャンルが現在の古墳ブームにおいて人気であるか検討する資料とする。

*グレートーンのものは百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録前後の2017年以降の書籍。

	タイトル(出版社)	発売日	ジャンル	備考
1	WONDER MOVE 古代文明のふしぎ(講談社)	2017/6/1	c	世界の文明の中の日本古代の文明として一部紹介
2	宮城のトリセツ—地図で読み解く初耳秘話(昭文社)	2020/3/1	a	県別ガイド／雷神山古墳を紹介
3	孤道 完結編—金色の眠り(講談社)	2019/3/1	d	
4	キトラ・ボックス(KADOKAWA)	2020/2/1	d	
5	古墳解説—古代史の謎に迫る(夢の設計社)	2019/9/1	b	
6	考古学講義(筑摩書房)	2019/5/1	b	
7	ザ・古墳群—百舌鳥と古市 全89基(140B)	2018/5/1	a	
8	美術検定3級問題集 基本編 : アートの歴史を知る(美術出版社)	2019/6/1	e	日本美術史の章に掲載
9	継体天皇と朝鮮半島の謎(文藝春秋)	2013/7/1	b	
10	意外と知らない熊本県の歴史を読み解く! 熊本「地理・地名・地図の謎」(実業之日本社)	2015/2/1	b	熊本県の装飾古墳について一部紹介
11	日本服飾史 女性編—風俗博物館所蔵(光村推古書院)	2015/4/1	b	
12	日本髪大全—古代から現代まで髪型の歴史と結び方がわかる(誠文堂新光社)	2016/5/1	e	
13	はじめて学ぶ考古学(有斐閣)	2011/4/1	b	
14	知識ゼロからの古墳入門(幻冬舎)	2015/1/1	b	
15	すぐわかる日本の美術史(東京美術)	2009/3/1	e	装飾古墳壁画を一部紹介
16	吉備の中山を歩く(日本文教出版(岡山))	2013/2/1	b	
17	日本の古代語を探る—詩学への道(集英社)	2005/3/1	b	
18	歩いてめぐる大阪本—古墳から大注目のうまい店まで!” 知らなかった”大阪(京阪神エルマガジン社)	2019/9/1	a	
19	歴史人物怪異談事典(幻冬舎)	2019/10/1	e	
20	卑弥呼の葬祭—天照暗殺(新潮社)	2019/7/1	d	
21	日本社会の歴史〈上〉(岩波書店)	1997/4/1	b	
22	古代史講義—邪馬台国から平安時代まで(筑摩書房)	2018/1/1	b	
23	中学受験〈2020〉時事ニュース完全版(朝日新聞出版)	2019/10/1	e	2019年の百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録を紹介
24	日本美術の歴史(東京大学出版会)	2005/12/1	e	
25	チャートで読み解く美術史入門(玄光社)	2019/9/1	e	
26	日本人はなぜ日本のことを知らないのか(PHP研究所)	2011/9/1	b	
27	失われたアートの謎を解く(ちくま新書)	2019/9/1	b	高松塚古墳壁画を一部紹介
28	カラー版日本美術史(美術出版社)	2003/1/1	e	
29	天皇陵—「聖域」の歴史学(講談社)	2019/10/1	b	世界遺産登録を踏まえた話題提起
30	死者の書・身毒丸(中央公論新社)	1999/6/1	d	
31	仕組まれた古代の真実—いっきにわかる! 古代史のミカタ(辰巳出版)	2019/7/1	b?	雑学のカテゴリ
32	アイヌと縄文—もうひとつの日本の歴史(筑摩書房)	2016/2/1	b	
33	前方後円墳—巨大古墳はなぜ造られたのか(岩波書店)	2019/5/1	b	「シリーズ古代史をひらく」

表2-2 紀伊國屋書店ウェブサイト検索欄「売れている順」検索結果一覧(2)

34	ヤマト王権の古代学 —「おおやまと」の王から倭国の王へ(新泉社)	2020/2/1	b	
35	火の鳥〈3〉ヤマト・異形編(KADOKAWA)	2018/7/1	d	
36	遺跡発掘師は笑わない —ほうらいの海翡翠(KADOKAWA)	2014/12/1	d	
37	「日本の遺産」ミステリー(三笠書房)	2019/10/1	b?	雑学のカテゴリ／古墳関連を一部紹介
38	カラー版でますますわかった！ 地形と地理で解決！古代史の秘密55(洋泉社)	2019/9/1	b	世界遺産登録を踏まえた話題提起
39	日本史の誕生—一千三百年前の外圧が日本を作った(筑摩書房)	2008/6/1	b	
40	興亡の世界史 スキタイと匈奴 遊牧の文明 (講談社)	2017/1/1	b	日本の古墳とは関係ないか
41	古代国家はいつ成立したか(岩波書店)	2011/8/1	b	
42	世界遺産登録へ！百舌鳥・古市古墳群のすべて (洋泉社)	2019/7/1	a	
43	八号古墳に消えて(東京創元社)	2004/1/1	d	
44	都心から行ける日帰り古墳群—関東1都6県の 古墳と古墳群102(ワニブックス)	2019/11/1	a	
45	日本の起源は日高見国にあった —縄文・弥生時代の歴史復元(勉誠出版)	2018/1/1	b	古墳の記述はないか
46	古墳とヤマト政権—古代国家はいかに形成され たか(文藝春秋)	1999/4/1	b	
47	鏡の古代史(KADOKAWA)	2019/12/1	b	
48	世界遺産 百舌鳥・古市古墳群をあるく—ビ ジュアルMAP全案内(創元社)	2019/8/1	a	
49	脳がみるみる若返る 脳トレ日本地図クイズ (ナツメ社)	2018/10/1	e	日本の歴史の章で古墳を紹介
50	仁徳天皇陵と巨大古墳の謎—「百舌鳥・古市古 墳群」世界遺産登録記念(宝島社)	2019/8/1	b	

術書・新書：b」「図鑑：c」「小説：d」「その他：e」の符号をつけた。なお、ここでは古墳に関する話題が含まれている書籍を扱うが、「日本史」や「日本の歴史」といった歴史全般の概説を扱った書籍は省略している。

調査の結果、現在よく売れている書籍の多くは、百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録前後の2017年以降の書籍であり(50件中30件)、世間では登録前後で古墳関連の書籍の需要・供給ともに増加傾向にあるといえる。そして、ここで注目したいのが50件中6件ある「雑誌・ガイドブック」のジャンルである。このジャンルは、大衆向けで親しみやすい内容となっているため、一般に広がる古墳ブームをうまく反映しているといえる。

そこで次に、同じくキーワード検索欄で「古墳」と調べ、「新着順」で表される検索結果からジャンルを「地図・ガイド」>「ガイド」>「目的別ガイド」に絞った結果全41件を挙げる(表3)。調査日は2020年9月14日である。

結果から、まず、世界遺産登録関連の書籍は2018年から出版開始され、2019年に急増、2020年では減少傾向にあることがわかる。理由として、世界遺産登録の熱が冷めたことや、コロナによる外出自粛の影響が考えられる。また、登録以前は関東を対象としたガイドブックが比較的多く、百舌鳥・古市古墳群に関連した書籍は少なく、更に2018年以前は古墳だけに焦点を当てたガイドブック自体が珍しかったといえる(29件中9件)。しかし2019年以降は12件中10件に増加しており、百舌鳥・古市古墳群の登録が古墳全体をめぐる関心に繋がっていることが読み取れる。

以上のことから、古墳ブームは書籍の売り上げにおいても確認され、またブームは世界遺産の登録にも

表3-1 紀伊國屋書店ウェブサイト検索欄 目的別ガイド「新着順」検索結果一覧(1)

*検索ワード「古墳」の検索結果からジャンルを「地図・ガイド>ガイド>目的別ガイド」に絞った検索結果全41件を挙げる(2020/09/14現在)。

*世界遺産登録前後で古墳関連のガイドブックの発売数や内容に差異があるか検討する資料とする。

	タイトル(出版社)	発売日	備考
1	世界遺産：百舌鳥・古市古墳群ガイド (小学館クリエイティブ)	2020/2/1	世界遺産登録関連
2	百舌鳥・古市古墳群一凸凹地図とおさんぽマップ (ブルーガイド編集部)	2019/12/1	世界遺産登録関連
3	畿内 古墳探訪ガイド—大阪・京都・奈良・兵庫 (メイツ出版)	2019/11/1	世界遺産登録関連(一部)
4	埼玉の古墳めぐり—謎とロマンの70基 (さきたま出版会)	2019/11/1	
5	都心から行ける日帰り古墳群—関東1都6県の古墳と古墳群102 (ワニブックス)	2019/11/1	
6	関東古墳探訪ベストガイド—古代に思いを馳せながら魅惑の古墳を散策：改訂版 (メイツ出版)	2019/8/1	
7	世界遺産 百舌鳥・古市古墳群をあるく—ビジュアルMAP全案内 (創元社)	2019/8/1	世界遺産登録関連
8	千葉 ぶらり歴史探訪ルートガイド (メイツ出版)	2019/4/1	一部に古墳関連の記載
9	古墳のひみつ—見かた・楽しみかたがわかる本 古代遺跡めぐり超入門 (メイツ出版)	2018/10/1	
10	九州古墳・古代遺跡探訪ベストガイド (メイツ出版)	2018/7/1	
11	古地図で歩く福岡 歴史探訪ガイド 決定版 (メイツ出版)	2018/6/1	一部に古墳関連の記載
12	ザ・古墳群—百舌鳥と古市 全89基(140B) (メイツ出版)	2018/5/1	世界遺産登録関連
13	神奈川歴史探訪ルートガイド (メイツ出版)	2016/2/1	一部に古墳関連の記載
14	大阪歴史探訪ルートガイド (メイツ出版)	2015/12/1	一部に古墳関連の記載
15	一度は訪ねたい日本の城 ビジュアル版鑑賞ガイド (朝日新聞出版)	2015/3/1	古墳関連の記載は無いか
16	ふくおか古墳日和 (海鳥社)	2014/12/1	
17	千曲川古墳散歩—古墳文化の伝播をたどる (彩流社)	2014/9/1	
18	楽しい古墳案内 別冊太陽 (平凡社)	2014/1/1	
19	関東・甲信越古代遺跡ガイド—東京 神奈川 茨城 栃木 群馬 新潟 (メイツ出版)	2013/8/1	
20	いにしえ吉備の自転車さんぽ (吉備人出版)	2012/6/1	
21	東京バス散歩(京阪神エルマガジン社)	2012/6/1	一部に古墳関連の記載
22	東京「消えた山」発掘散歩—都区内の名(迷)山と埋もれた歴史を掘り起こす 言視ブックス (言視社)	2012/4/1	一部に古墳関連の記載
23	茨城歴史探訪ウォーキング—県内各地で気軽に楽しめるルートガイド (メイツ出版)	2012/3/1	一部に古墳関連の記載
24	奈良歴史探訪ウォーキング—県内各地で気軽に楽しめるルートガイド (メイツ出版)	2011/10/1	一部に古墳関連の記載
25	関東古墳探訪ベストガイド—東京・神奈川・千葉 埼玉・茨城・栃木 群馬・山梨 (メイツ出版)	2011/7/1	
26	埼玉歴史探訪ウォーキング—県内各地で気軽に楽しめるルートガイド (メイツ出版)	2010/7/1	一部に古墳関連の記載
27	兵庫歴史探訪ウォーキング—県内各地で気軽に楽しめるルートガイド (メイツ出版)	2010/7/1	一部に古墳関連の記載
28	奈良さわやかさんぽ—全23コース (山と溪谷社)	2010/3/1	一部に古墳関連の記載
29	九州古代遺跡ガイド (メイツ出版)	2009/8/1	一部に古墳関連の記載

表3-2 紀伊國屋書店ウェブサイト検索欄 目的別ガイド「新着順」検索結果一覧(2)

30	謎の古代豪族「尾張氏」の誕生一守山白鳥塚古墳の歴史像復元(ブックショップマイタウン)	2008/10/1	
31	邪馬台国への旅ー日本全国・比定地トラベルガイド50(東京書籍)	2006/12/1	一部に古墳関連の記載
32	西国三十三カ所ウォーキング 大人の遠足 book(JTB パブリッシング)	2003/10/1	一部に古墳関連の記載
33	石は語るー静岡新聞日曜版(静岡新聞社)	2003/7/1	一部に古墳関連の記載
34	子どもとでかける大分あそび場ガイド<'03~'04>(メイツ出版)	2003/3/1	一部に古墳関連の記載
35	埼玉ふるさと散歩(比企丘陵編)(さきたま出版会)	2001/4/1	一部に古墳関連の記載
36	京都に強くなる75章(クリエイツかもがわ)	2000/12/1	一部に古墳関連の記載
37	大和を歩くーひとあじちがう歴史地理探訪(奈良新聞社)	2000/11/1	一部に古墳関連の記載
38	斑鳩散歩24コース(山川出版社(千代田区))	2000/8/1	一部に古墳関連の記載
39	飛鳥散歩24コース(山川出版社(千代田区))	2000/8/1	一部に古墳関連の記載
40	神奈川の古墳散歩(彩流社)	2000/8/1	
41	大和路浪漫紀行ー古墳・古代遺跡を訪ねてーツウリスト情報版(近畿日本ツウリスト)	1998/7/1	
<ul style="list-style-type: none"> ・18年から世界遺産登録関連の書籍出版開始、19年に急増。20年では減少傾向(世界遺産登録の熱が冷めた、あるいはコロナによる外出自粛が理由か) ・登録以前は関東を対象としたガイドブックが比較的多く、百舌鳥・古市古墳群に関連した書籍は少なかったか。 ・18年以前は古墳だけに焦点を当てたガイドブックは珍しかった様子(29件中9件)。19年以降は12件中10件に増加。 			

確実に影響を受けていることがわかる。一方でコロナによる影響や古墳への興味の薄れも感じさせる結果となった。

(4) SNSの動向の調査

インターネットやSNSの動向は多岐にわたるため、すべての情報を把握することは難しいが、ここでは事例研究として以下のものを紹介する。

まず取り上げる事例は「はにコット」である。「はにコット」とは、「アートと古墳のフェス」と銘打った、「古墳・埴輪・古代がテーマの商品を必ず一点以上販売すること」という規則があるフリーマーケットや楽曲ステージ等を主体とする大規模イベントであり、まさに古墳ブームを牽引するイベントといえる。2012年から毎年11月今城塚古墳の古墳公園にて開催されており、2018年のフェスVol.8では来場者数が最高の35,000人に登った。しかし、2020年は新型コロナウイルスの影響により、大型イベントの中止が余儀なくされた。そこで「はにコット」はLIVE配信アプリを用いたりリモート開催Vol.9.5を執行し、Instagram等



図4 TwitterやInstagram(古墳フェスはにコット公式Twitterより)



図5 ネットを活用した取り組みの例（文化庁 YouTube チャンネルより）

で広報を行った。結果、オンラインでの来場者数は現地開催の最大に並ぶ 35,000 人を記録した。また、2021 年は現地の会場とリモートを併用したイベント Vol.10 を実施した（図 4）。

「はにコット」は民間の取り組みの一例であるが、一方文化財関連の研究所、博物館などの公的機関の動向について見ても、古墳に限らず、コロナ禍における文化財の活用の方法として、インターネットや SNS、YouTube を利用した動画配信の事例が多く見られるようになってきた。各地の博物館では「おうちミュージアム」など、展示を紹介する動画の企画が進められていた。博物館だけでなく、奈良文化財研究所などの専門機関、文化庁などの行政側からの発信も盛んに試みられている（図 5）。

このように、コロナ禍で古墳ブームが衰退する懸念がある一方、古墳を含め文化財活用の大きな流れとして、動画をはじめとする SNS 等を利用した情報の配信があり、これが民間・行政を問わず新たな活用の主要な方法となりつつあることがわかった。SNS での情報配信においては、それらを多く利用する一般の人、特に若者にとって、制限のある社会生活において現地に赴くよりも手軽であり、また楽しく参加できるということで古墳ブームは盛り上がっているとみられる。「はにコット」などのネット配信により古墳ブームは継続しており、またそのことは新たな文化財活用法を示唆しているといえる。

2. 百舌鳥・古市古墳群の実態調査

次に現地調査として、百舌鳥・古市古墳群が含まれる堺市・羽曳野市・藤井寺市における世界遺産登録前後の訪問者の増減や各地域の取り組みと課題、またコロナ禍における現状などについて、各担当者への対面インタビューおよびメールによるアンケート調査を実施した。

（1）堺市博物館におけるインタビュー調査

堺市博物館では学芸員の橘泉氏と肥田翔子氏にインタビューをさせていただいた。

①古墳ブーム全体について

- ・古墳ブームについては、10 年ほど前からイベントが開催され始めるなど盛り上がりは認識していた。ただし堺市博物館はあくまでも堺市の博物館であるため、古墳ブームに乗りつつも他地域・他時代（中世）の歴史全般についても関心を持ってほしい。
- ・堺市博物館としてはこれまで定期的に古墳関連の特別展や企画展を開催してきたが、ここ数年の登録に向けた取り組みの中で古墳を扱う展示が増加し、世界遺産認定証も一時展示していた。登録に合わせたガイダンス施設が新たに建設される予定である（インタビュー当時）。

②来館者数の現状とコロナ禍の影響について

- ・来館者数の変化については、古墳群の世界遺産登録の直前から急増し、全体的な印象としてはファミリー層、高齢者の団体客、外国人来館者の増加が見受けられた（図6）。隣接する日本庭園の影響もあり、登録前後は中国や韓国からのツアー客や欧米の来館者もみられるようになった。博物館からは大仙古墳を一望することはできないが、墳丘全体を見渡せる解説付きのVR体験ができ、多い時で1日90人ほどが体験し、有料ながらも満足度は高かった。
- ・コロナ禍においては一時休館を余儀なくされたが、YouTubeとFacebookに大人向け、子ども向けのコンテンツをアップし、博物館ホームページでは塗り絵を公開するなど発信を継続した。
- ・開館再開後は手で触れることのできる体験コーナーの撤去、アンケートの中止や講演会の事前予約制・少人数制への変更などが発生した。さらに特別展の目玉であった展示物が韓国の博物館から借りれず写真パネルに変更せざるを得ない状況で、シンポジウムもオンラインで開催することを余儀なくされるなど厳しい現状である。

③他の自治体との連携について

- ・古市古墳群側との連携としては講演会やボランティア、個人での交流はあるが、行政区画の影響で堺市の予算を使うためどうしても堺市中心のものになってしまう。また、その場合においても古墳だけに資金投入をすることはできないという事情があり、限界を感じている。その問題点の解決においては、大阪府により積極的に全体を統括し、活用に取り組む体制づくりが希望される。
- ・ICOMOSと行政の世界遺産登録に関する認識の差も大きな課題。ICOMOSは世界遺産登録を通して遺跡の保存に重点を置いている一方、行政としてはその保存においては多少の手を加えることが必要な物件であること、また当初観光資源としての活用も視野に入れた登録推進を行っており、そのための整備ができないなどの問題が生じている。

※ ICOMOS（イコモス・国際記念物遺跡会議 International Council on Monuments and Sites）とは、文化遺産保護に関わる国際的なNGOで、世界文化遺産登録の際に調査を行う専門機関となっている。組織設立のもととなった「ヴェニス憲章」には、記念物ができた歴史的变化を尊重した推測によらない復元の必要性が明記されており、実際堺市の寺山南山古墳の復元整備についてICOMOSが真実性の担保ができていのかと意見が出たこともあった。

(2) 羽曳野市におけるアンケート調査

羽曳野市においては、長く文化財行政に関わってこられた市立陵南の森総合センターの河内一浩氏にご回答いただいた。氏は羽曳野市の文化財行政に関わる傍ら、FacebookやInstagramなどのSNSで自身の野帳を投稿するなど、古墳や考古学に関する情報発信を行っている。その活動はマスコミに取り上げられるだけでなく、博物館での野帳の展示や電車のラッピングに採用され野帳ブームの火付け役となった。野帳とは測量野帳とも呼ばれ、固い表紙とマス

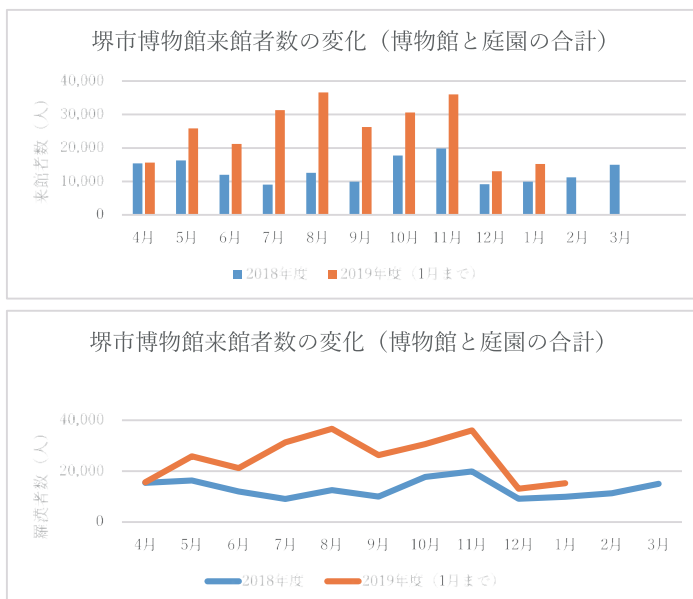


図6 堺市博物館来館者数の変化

目の紙でできた発掘現場で広く使用されているポケットサイズのメモ帳のことである。河内さんはそのノートに観察した埴輪や古墳のイラストを書き溜め、発信している。今回は羽曳野市としての取り組みの現状と、河内氏個人の活動について教えていただいた。

①羽曳野市の取り組みの現状

- 古墳ブームの登場については、2011年に古墳群がユネスコ世界遺産暫定一覧表に掲載され、藤井寺市と合同で普及冊子を作った時、古墳の見学者層が従来のマニアから一般人に変化しつつあることを感じた。以前から市内の古墳を見学したり、発掘調査の現地説明会に訪れる熱心な「好古家」は存在したが、関心を持つ人の範囲が拡大したようである。この傾向は市への問い合わせ件数や、河内氏が2013年から始めたSNSの投稿記事への反応からも読み取ることができる。羽曳野市には身近に見学できる古墳が多いこともあり、気軽に来訪できる環境の結果がこの状況につながっていると考えられる。
- 羽曳野市が行っている古墳活用としては、観光案内所のリニューアルやレンタサイクルの整備、登録直後には鉄道会社と藤井寺市との共同イベントを実施、市の行事での広報をするなど観光的・広報的な活用を行っている。しかし市では古市古墳群のほかに竹ノ内街道（難波と飛鳥の都を結んだ大阪府と奈良県にまたがる日本最古の官道：2017年に大阪府内初の日本遺産に登録）をメインにした取り組みも並行して行われており、世界遺産登録後の活用については市役所の中で温度差があるように感じられる。
- 堺市と藤井寺市とは2010年、2016年に古墳に関する冊子『百舌鳥古市古墳を歩く』を共同で製作・刊行し、登録後は3市と大阪府との会議が設けられ、行政的に連携体制にある。また今後の課題としては、古墳見学の内容やビジターセンターの建設の問題、市役所内や外部施設の展示施設の設置問題があり、羽曳野市長の交代やコロナ禍がそれらに大いに影響していると思われる。

②河内氏個人の活動について

- 愛用の野帳をSNSに投稿するようになったきっかけは、2015年4月に教育委員から市民部局の人権文化センターに異動となり、古墳に関する情報を発信する場を失ったことである。2016年に京都で開催された世界考古学会議第8回大会で野帳が公開されてからマスコミに取り上げられるようになり、博物館施設で古墳や埴輪をスケッチした野帳が展示されるなど反響が高まっていると感じる。SNSにおける古墳関連の投稿に「いいね」などの反応がくることが、市民大学の講座や講演依頼は古墳と埴輪が中心であり、一般の方に好評なことから、まさに古墳ブームを感じているところである。
- 和歌山電鐵株式会社から自社の沿線の古墳と氏の野帳を使った企画が挙がってきており、古墳ブームは羽曳野市のみならず府外でも感じている。

(3) 藤井寺市におけるアンケート調査

藤井寺市においては同市教育委員会文化財保護課の山田幸弘氏と泉真奈氏にご回答をいただいた。

①古墳ブームについて

- 古墳ブームの始まりと経過については、2019年5月頃から徐々にマスコミに取り上げられる回数が増え、来訪者の増加も感じた。写真の掲載申請件数が年間で100件近くを数えるなど掲載書籍の数も増加した。コロナウイルスの影響で2020年4月以降は減少したが、古墳を周遊する人も散見されることから市民の興味は引き続きあるようだ。

②市における活用方法について

- 古墳の保全のため墳丘の植栽調査と間伐を実施して墳丘を観察できるようにしている。藤井寺市域には百舌鳥・古市古墳群の中でも限られる、墳丘に登れる古墳があり、市民の憩いの場として整備したり、

PR活動を行ってきた。また世界遺産をめざす上でVRやARを活用し築造当初の様相と現在の姿を比べられるアプリ（「藤井寺古墳探検」）を作成した。

- ・他の自治体との連携については、説明板やルート案内、周遊ルートは堺市と羽曳野市と協議し統一させたことや、百舌鳥・古市古墳群の古墳や、関連施設などを周って収集するMOZU-FURU CARD（もず・ふるカード）の取り組み、堺市と交付金を活用して映像を共同制作したことが主なものとして挙げられる。

※ MOZU-FURU CARDとは、堺市・羽曳野市・藤井寺市が共同で企画した古墳群を周遊して集めるカードである。世界遺産登録推進活動の一環としてスタートし、登録後の現在もリニューアルを経て合計67枚のカードが作成されている。誰でも気軽に参加でき、訪れた古墳やその解説板の写真をガイドンス施設や観光案内所などの指定された場所で提示すると、その古墳のカードを獲得することができる。カードには古墳の写真と解説があり、全古墳のカードを集めると、もず・ふるコンプリートカードがもらえる仕組みになっている。

③活用における課題について

- ・ICOMOSとの認識の乖離が挙げられる。ICOMOSは可能な限り現況を踏襲する考えを重視しているが、古墳の場合は墳丘上の樹木を放置すると倒木や墳丘土砂の流出が発生する可能性がある。また墳丘に上るためのルートの整備でも意見が食い違っており、世界遺産に登録された現在では、海外の専門家を含めて整備計画を慎重に策定、実行していく必要がある。その際どの程度の復元的整備が可能となるかが課題となるが、一方で整備や活用之际にはHIA（資産影響評価）を実施する必要も想定され、HIAの評価基準をどの様に諮るかも今後の課題としてあげられる。
- ・その他今後の具体的な活用案としては、現地で古墳の主体部をイメージできるARアプリの制作、出土甲冑の復元甲冑を製作、市内の出土遺物の3D化を行い、体験素材として活用する予定。

（4）河内こんだハニワの里・大蔵屋におけるインタビュー調査

大阪府羽曳野市にある当施設は、オークラグループが運営しており、埴輪づくり体験やはにわ弁当や古墳グッズ（ネット販売有）を多数そろえているお店である（図7）。今回、大蔵屋企画営業部長の朝野亜紀子さんにインタビューさせていただいた。開店からインタビュー現在までの客足、登録前後の1年間で感じた課題、コロナ禍の影響と新たな取り組みなど有益な情報を得た。

①オープンから現在までの状況

- ・大蔵屋は、地元で世界遺産登録に向けた活動が本格化し始めた2019年4月にオープンし、翌月の5月にはICOMOSの勧告で登録の内定する絶好のタイミングで営業を始めた。当時は地元の人だけでなく県外からも多くの人々が来店した。続く夏休みシーズンには遠方から古墳を巡る観光客が立ち寄ったり、団体客がお土産を買いに寄る傾向がみられた。また、子供会や塾のレクリエーションとして埴輪作り体験に参加するケースや、体験型観光ブームやワークショップの人気も後押しして、30代・40代の若い世代や大学カップルが埴輪や古墳に興味を持つ現象も見受けられた。この期間中に合計約1000人が埴輪作り体験をした。
- ・2020年1月の客足は年末に比べ想定範囲内で少し減少したが、タイから来た人が埴輪体験に参加するなど海外からの来客もあった。さらに2月には、インバウンドを狙って行政が東京から海外の記者を呼ぶプレスツアーを催し、BBCをはじめ10人程度記者が訪れた。プレスツアーは成功したが、新型コロナウイルスの感染拡大が始まり記事が出たかは不明である。3月以降、次第にコロナの影響が表れた。まず春休みの団体客の予約がキャンセルとなり、5月に緊急事態宣言は解除され、少人数の埴輪体験を開



図7 河内こんだハニワの里大蔵屋の提供サービス

(1. 大蔵屋外観、2. 大蔵屋お弁当、3. 大蔵屋おすすめのもの、4. 大蔵屋埴輪体験作品例)

始したもののほとんど来客はなかった。

- ・7月に世界遺産登録1周年を祝うイベントが各方面で催され、大蔵屋の客足も少しずつ回復し始めたが、7月末の感染拡大の第二波により再びキャンセルが増えた。しかし7月5日に堺市のハニワ部長と一緒に埴輪作り体験ができるコラボイベントを開催したことで、ハニワ部長ファンも多数来店した。8月には大蔵屋が企画する821GP（埴輪グランプリ）の表彰式に堺・羽曳野・藤井寺の3市の市長が集い市長賞の授与式が執り行われた。そして取材当時(2020年10月31日)、古墳群関連のニュースや大蔵屋のメディア露出は減っており、感染拡大によって客数も激減している。また経済対策として国が推進するGo Toキャンペーンの恩恵は感じられていない。

②オープンからの1年間で見つかった課題

- ・世界遺産には「百舌鳥・古市古墳群」で登録されたのにも関わらず、古市古墳群のある羽曳野市にはあまり人が訪れていない印象がある。観光バスツアーも百舌鳥古墳群の大仙古墳に続いて2番目に大きい応神天皇陵古墳だけを見て、食事処や博物館、お土産など全て揃っている堺市に行ってしまう。また、マスメディアも堺市の取り組みの方を頻繁に取り上げる傾向がみられる。
- ・一方で世界遺産登録に関する行政側の足並みは、埴輪グランプリに3市長が集合してPR活動を行うなど、羽曳野市長の交代で揃いつつあるように感じられる。

③コロナ禍の取り組み：『おうちで埴輪を作ろう』について

- ・4月末に飲食店が一斉にテイクアウトを始めたのをヒントに、地元の人が車でお店に立ち寄って材料を

買い、作った埴輪をお店に持ち込み、焼き上がったのを受け取りに行くというサービスを考案した(図8)。遠方の人からの注文には宅急便を利用し、店舗へ作った作品を持ちこむ場合に鼻や腕が取れないような作り方を動画で説明する工夫をした。

- ・取材日までに約50人がこのサービスを利用し、外出自粛が求められたステイホーム期間中にはアマビエや、コロナで話題になった大物芸人をモチーフにした埴輪を作る人もいた。全体的に今年を象徴するようなデザインが多くみられ、埴輪作りを体験した子どもの保護者は、思い出として残せて嬉しいと手紙を添えてくれた。さらにリピーターも出てきている。

※筆者も実際に粘土を宅急便で受け取り、高さ25cmほどの埴輪を作って店舗に持ち込み、焼き上げてもらった。以前他の焼用の粘土を取り寄せ自分で野焼きしたものは、雨によって程なくすると庭で跡形も無くなったが、大蔵屋さんで焼いてもらったものは1年経過しても庭でしっかりと立っている。また、埴輪制作解説動画も非常にわかりやすく役立った。電話での質問にも快く教えてくださった。

④地域貢献について

- ・地元の幼稚園児が参加する埴輪作り体験を開催し、幼稚園の教員と園児の間で埴輪ブームを起こした。また、地元の高校、ボランティアガイド、羽曳野市教育委員会と連携し、地元の歴史学習の授業を企画したり、市民講座を協賛することで地域住民が古墳に関わる場や機会の提供に貢献している。

⑤「もずふる隊」について

- ・「もずふる隊」とは藤井寺市、羽曳野市内で活動する団体が発起人となり、世界文化遺産登録に向けた地元の気運醸成のため立ち上がったもので、「百舌鳥・古市古墳群」を応援したいという思いを持っている個人、企業、団体による価値、魅力の普及啓発を行っている。構成者数は羽曳野市で団体・法人が144団体、個人会員が1,740名(平成29年10月6日現在)、藤井寺市で個人隊員が127名、団体隊員が9団体(平成27年11月18日現在)である。大蔵屋も参加して様々な場面で協働しているが、十分に活動が行われていないのが実態である。何か一体となって活動できれば大きな潜在能力を発揮すると思われる。

(5) その他における聞き取り調査

上記以外にも、百舌鳥・古市古墳群の関係各所にて情報収集を実施した。

①仁徳天皇陵御拝所・ガイドボランティア(図9)

世界遺産登録前後の観光客数の変化については、2019年は以前に比べ格段に増えた。印象として年齢層には差はみられなかったが、外国人観光客も多く訪れていた。なおガイドボランティア活動が始まったきっかけは、阪神淡路大震災でボランティアが流行したことに通じており、その後行政からの提案もあり、御拝所での案内ボランティアが始



図8 おうちではにわ



図9 仁徳天皇陵拝所

まった。

②こ・ふんカフェ（図10） 三国ヶ丘駅前のカフェに立ち寄った際に少しお話を聞いた。店内では古墳を模した食事やスイーツ、古墳グッズを販売していた。世界遺産登録前後の客足について尋ねると、2019年



図10 三国ヶ丘駅前こ・ふんカフェ
（上：古墳定食、下：カフェ店内のグッズ）

は客が大幅に増加したが、コロナの影響で激減したとのことであった。

③羽曳野市観光案内所（古市駅前・図11） 登録前後は多くの人々が観光案内所にも訪れ、特に5月はICOMOSの登録内定が出たということで、世界遺産になると混雑するからと先に来る人でにぎわった。新型コロナウイルスの感染拡大で訪問者の数は減少したが、気候の良い行楽シーズン（秋）になると少しずつ増えてきた。提供いただいた訪問者数データによれば、世界遺産関係の情報を得る目的で観光案内所に立ち寄る人は、全体の訪問者数に概ね比例して2019年の4月・5月に上昇し、翌年の同じ時期は低迷している。これは感染拡大の影響が如実に表れた結果と考えられる（図12）。

④藤井寺市観光案内所（藤井寺駅・図11） 当案内所は近鉄藤井寺駅の商店街に所在し古墳から少し離れているため、登録以前は古墳を訪ねて来る人はほぼいなかったが、登録後には若干ながら立ち寄る人がみられるようになった。その後新型コロナウイルスの感染拡大で訪問者は減ったが、調査日の2020年10月は大体土日で20人ほど訪れている。少し前には合わせて400人程の人が押し



図11 観光案内所（左：古市駅前、右：藤井寺駅前）

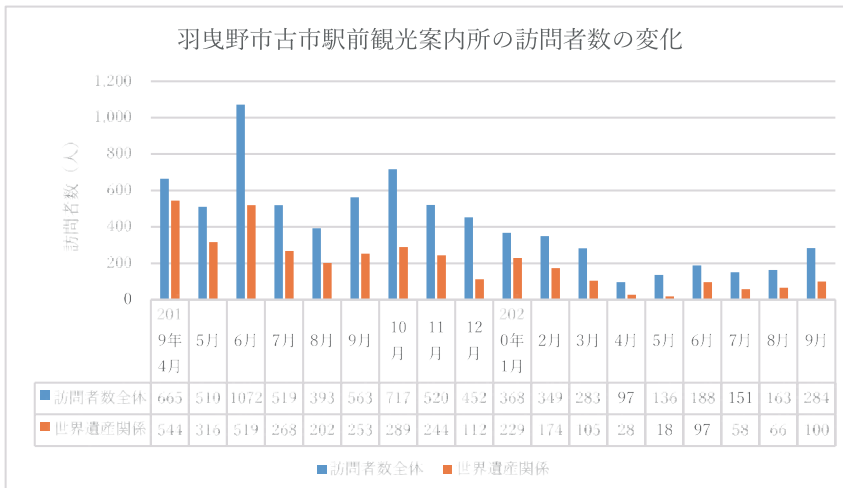


図12 羽曳野市古市駅前観光案内所の訪問者数の変化



図13 マンホールカード

寄せたそうだが、目的は新しく配布が開始された藤井寺市のマンホールカードで、古墳には目もくれなかった。

※マンホールカードとは、下水道の価値や役割を広くPRすることを目的とした産学官の任意団体GKPが制作する、全国各地のご当地のマンホール蓋のデザインをカードにしたもので、2016年以降2020年6月現在667種類が発行されている(図13)。コレクターにとっては第1版の希少価値が高いため、皆それを求めて案内所にやってきたということだった。

(6) 調査のまとめ—百舌鳥・古市古墳群—

ここまで、3市の文化財に関わる方々や古墳ブームに貢献する企業、観光案内所、ボランティアの方々から回答いただいた内容について述べてきた。以下、改めて調査の結果について整理しておこう。

◆堺市博物館

- ①古墳ブームは10年前くらいから感じる
- ②博物館としてはあくまでも古墳ブーム乗りつつも他地域・他時代の歴史についても関心を持ってもらいたい
- ③近年古墳や世界遺産登録に関連する展示が増加した
- ④世界遺産登録前後から来場者数が急増し様々な層の人々が訪れたが、コロナ禍の影響も受けた
- ⑤古墳の墳丘が一望できるVRが人気だった
- ⑥休館中はYouTubeとFacebookに大人向け、子ども向けのコンテンツをアップロードした
- ⑦コロナ感染対策により体験コーナーの撤去、特別展の展示物の写真への変更が必要となった
- ⑧行政としては堺市内かつ古墳だけでなく全体の文化財に資金を使用しなければならない限界がある
- ⑨観光資源としての利用も検討する行政とICOMOSとの間に世界遺産に関する認識の差が生じている

◆羽曳野市

- ①2011年に古墳の見学者層の変化に気付いたが、特に2013年以降は訪問者が増えた印象がある
- ②市としては観光案内所やレンタサイクルなどの整備や市の行事での広報活動を行っている
- ③市内には古市古墳群以外に竹ノ内街道があり活用の両立が必要である
- ④2市とは古墳に関する冊子の製作や大阪府を含めた会議を通して行政的な連携体制がある

- ⑤ ビジターセンターや展示施設の設置問題やコロナ禍の影響が課題である
- ⑥ SNS に掲載した野帳のイラストに大きな反響が集まっており、古墳ブームを感じる

◆ 藤井寺市

- ① 2019年5月以降マスコミや来訪者数が急増し古墳ブームを感じる
- ② 古墳保存のために墳丘上の植栽調査や間伐を実施している
- ③ 登れる古墳を市民の憩いの場として整備しPR活動を行っている
- ④ 登録に向けてVRやARを活用したアプリを開発した
- ⑤ 2市と連携して周遊ルートや解説板の統一、もず・ふるカードの取り組み、解説映像の作成を行った
- ⑥ 手入れが必要な古墳の整備については現状保存を重視するICOMOSと話し合いが必要である
- ⑦ 今後もARアプリや出土品のレプリカや3D化を行い体験素材に活用する予定である

◆ 河内こんだハニワの里 大蔵屋

- ① 2019年4月から多くの観光客が訪れたが、2020年3月以降のコロナ禍においては激減した
- ② 2020年7月の登録1周年イベント後は客足が回復しはじめ、堺市のハニワ部長とのコラボイベントや821GP（グランプリ）に3市の市長が出席し話題となった
- ③ 百舌鳥・古市古墳群として登録されたが羽曳野市にはあまり観光客やメディアが来ない
- ④ コロナ禍の取り組みとして自宅で埴輪制作体験サービスを始め、大好評だった
- ⑤ 地元の幼稚園や高校と連携して地域の歴史学習や古墳に関わる機会の提供に貢献している
- ⑥ 藤井寺市と羽曳野市で組織された「もずふる隊」に今後さらなる活動が期待される

◆ その他の観光案内所や飲食店

- ① 2019年の特にICOMOSの登録内定勧告が報道された5月以降訪問者が増加した
- ② コロナ禍に入ると訪問者数は減少したが、調査当時も一定程度訪れていた
- ③ 近鉄藤井寺駅前の観光案内所には古墳ではなくマンホールカード目的に人々が押し寄せていた

以上のことが実地調査により確認できたことである。世界遺産登録前後には確実に古墳ブームが顕著になったといえるものの、これからの課題もあると感じた。堺市と羽曳野市・藤井寺市の間に行政的な壁があり、百舌鳥・古市古墳群全体としての観光政策が不十分であることがその1つである。例えば百舌鳥古墳群と古市古墳群を結ぶバスは無く、両地域への訪問を促す取り組みもあまり感じられず、PRの方法でも羽曳野市や藤井寺市よりも堺市が優勢でメディアでの露出も上回るといった印象を受ける。「百舌鳥・古市古墳群」として世界遺産に登録されたにもかかわらず、両者の間に距離だけではない格差や意見の相違が見られる原因として、この遺跡群が3市にまたがっており各市で異なる方向性を持って古墳群の活用を行っているからなのではないか。もちろん財政力の違いが影響している可能性も考えられる。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が「古墳ブーム」に多大な影響を与えていることが改めて浮き彫りになった。観光客数が減少する中で、特に民間企業において深刻な影響がうかがえた。ただ、そのなかでも非接触型のイベントや体験ができるような工夫も考えられているほか、SNSやYouTube等を利用した情報発信などが、ブームの新たな形となりつつあることが見て取れた。

3. 愛知県・岐阜県における活動の実態調査

百舌鳥・古市古墳群での調査結果を踏まえ、より広い地域を対象に、行政区を超えた文化財活用の例、またコロナ禍での有効な取り組みの例を探索した。その中で、愛知県の志段味古墳群・断夫山古墳（名古屋

屋市・青塚古墳（犬山市）で行われている新たな取り組みを知り、本例が百舌鳥・古市古墳群の活用において参考になる部分が多いと考えた。そこで志段味古墳群（名古屋市）では名古屋市教育委員会文化財保護室の濱口真哉氏、および体感！しだみ古墳群ミュージアム館長の松井致也子氏にインタビューを依頼した。また、青塚古墳ガイダンス施設の学芸員大塚友恵氏をはじめ、断夫山古墳に隣接する熱田神宮公園管理事務所、昼飯大塚古墳の資料を展示する大垣市歴史民俗資料館の職員の方々に直接お話を伺い、活用現状の把握を試みた。

（1）体感！しだみ古墳群ミュージアムにおけるインタビュー調査

体感！しだみ古墳群ミュージアムについて 名古屋市内には約200基の古墳が確認されており、なかでも北東端の守山区上志段味にある志多見古墳群は66基の古墳が集中して築かれ、そのうち現存する7基は国の史跡となっている。4世紀～7世紀にわたり規模や形の異なる古墳が継続して築かれており、比較的狭い範囲に様々な墳丘を持つ古墳があることも踏まえて、「リアル古墳図鑑」とでも呼ぶべきものである。名古屋市教育委員会は、志段味古墳群を保存・活用して古代を体感できる場所「歴史の里」を整備し、2019年4月に古墳を巡るガイドツアーや体験学習、出土品を展示する施設「体感！しだみ古墳群ミュージアム」(SHIDAMU) (図14-1)を開館させた。ミュージアムは行政が直接運営しているのではなく、指定管理者制度によって民間会社が運営している。

①古墳ブームと新型コロナウイルスの影響について

- 古墳ブームについては、昨年4月のミュージアムオープンと世界遺産登録による人気の高まりに関連があったかどうかはわからないが、来館者の会話の中に「世界遺産の登録」というフレーズも聞かれたので、数値的には分からないが何かしらのきっかけにはなったのではないと思われる。古墳ブームとは別に、名古屋ではお城など文化財ブームが起こっており、観光客も増えている。
- コロナ禍における「体感！しだみ古墳群ミュージアム」の来館者数については、2019年度は3月に休館する前までの11ヶ月で、無料ゾーンを利用した人も含めてミュージアムの15万4591人が来館し、他の博物館に比べても多い。ミュージアムは2020年の3月2日～5月31日まで感染拡大の影響で休館した。6月2日の開館以降は、6月に4946人（前年の同月約1万5千人）10月に8996人（前年の同月約1万1千人）が来館し、いずれもオープンした前年に比べ減少しているが、回復しつつある。来館者数の上昇には後述する御墳印のイベントの影響も大きかったと考えられる。
- このミュージアムは体験をコンセプトにしており、ガラスケースが少なく展示品との距離が近いことや、手で触る展示を中心としているため、コロナの影響で一時中止していたが、現在は再開している。感染拡大による閉館期間には、有料ゾーンのガイダンス動画をYouTubeで無料にて公開したり、地元の大学生の制作した動画をアップロードしたり、館内で有料で提供していた塗り絵を無料でネット上に掲載した。これらの取り組みは、子供に元気を届けるという小学校のイベントの一環として行われた。
- ミュージアムとしての今後の課題は、さらなる集客である。これまでも来館者を飽きさせないように、様々な体験型イベントを行ってきており、古墳やミュージアムを訪れて興味をもつきっかけ作りに貢献している。一方で館内アンケートの結果ではリピート率も高く、理由として地元に着した施設になっている点が挙げられる。

②「御墳印」について

- 志段味古墳群・断夫山古墳・青塚古墳では2020年9月より、「御墳印」(図14-2)と呼ばれる、それぞれの場所でオリジナルの、御朱印のような紙の記念品を販売している。この取り組みは、コロナ禍で



図 14 愛知県内の古墳活用事例 1（左：しだみミュージアム外観、右：御墳印）

外出自粛が続く中、屋外で、かつ愛知県内で完結できる企画として考案された。ミュージアムは行政が直接運営しているのではなく、指定管理者によって運営されているため、休館が続いたミュージアムの来館者目標を達成するため戦略の1つとして、近年人気となっている御城印（各地のお城を巡って取集する記念印）から着想を得て実施した。

- ・話題作りが何よりの宣伝になると考え一刻も早く発表したいという館長の思いから、まずは愛知県内の古墳で大きさ上位3基の御墳印を作成し、感染状況がひと段落した9月にサービスを開始した。体感！しだみ古墳群ミュージアムの受付では志段味古墳群の白鳥塚古墳の御墳印を販売しており、断夫山古墳の御墳印は熱田神宮公園管理事務所、青塚古墳の御墳印は青塚古墳史跡公園ガイド施設の受付で1枚300円で購入することができる。想定通り多くの地元のメディアが御墳印を取り上げ、インタビューを実施した2020年11月28日の時点で志段味古墳ミュージアムでは約540枚を売り上げた。SNS上で「ほしい」というコメントは全国から見かけるが、実際は地元の人を中心に人気が高まっている。
- ・本企画の開始にあたっては、外出自粛が続く中、コロナ対策をしつつも古墳やミュージアムを訪れてもらうために、屋外の古墳を巡るといふ企画は安全性が高く愛知県内で完結できるものだとすることを強調した。新型コロナウイルスの感染対策とウィズコロナが叫ばれる新しい時代に、古墳を訪れる目的を持たせることでミュージアムが人々を元気づけ、忘れられない場所となることが1番重要だと考えた。
- ・御墳印を運営するにあたり、対象の3基の古墳はそれぞれ管轄する行政区が異なっていたが、ミュージアムを実際に運営している会社が他の古墳の管理会社と同系列グループだったため（指定管理者制度）、迅速に連携・実施することができた。しかし名古屋市などの行政側からの温かい賛同があったからこそ実現できたものである。
- ・今後の展望として、これまでのローカルメディアだけでなく、今後は全国メディアに取り上げられ他の自治体でも御墳印が広がることを期待している。実際に実施を検討しているところも出てきている。しかし、御墳印の対象古墳をさらに拡大させていきたいものの、ガイド施設をもつ古墳が少ないため難しいのが現状である。また、それらのガイド施設は行政が運営していることが多く、収益が上がってしまう活動がしにくいという点も問題である。

③「歴史の里公園」について

- ・歴史の里公園内の全ての古墳には古墳の情報が記載された案内板があり、QRコードを読み取れば外国語にも対応している。いくつかのスポットでは、スマートフォンにアプリを入れると古墳の主体部構造の

再現を見ることができ、VRが手軽に体験できる。公園内の小規模な古墳には登れるように盛り土をして登れるように整備し、志段味大塚古墳は復元整備が行われており、墳丘に葺石や埴輪が再現されている。実際に階段を使って墳頂部からの眺めを味わうこともできる。古墳に並べた埴輪のレプリカが割られる被害もあり、防犯カメラを設置したそうだ。この館の特徴として、地元の人々の利用が多く、公園化に対して苦情などはなかった。コロナ禍でも自粛があげると、散歩する人が多く来館した。

- ・ミュージアム全体については、利用者に合わせたコンセプトやデザインで設計されており、これまでの博物館のイメージとは少し異なったものである。例えば、絵本作家による古墳を築造する人々を描いたカラフルな壁紙は暖か味があり、小さな子どもを連れた若い世代の来館を想定している。また、館内は展示室のみが有料ゾーンとなっており、2階の就学前の子どもたちが遊べる、古墳をモチーフにしたキッズスペースがある。そこでは子どもを連れてきた地元のお母さんたちの憩いの場にもなっている（現在はコロナのため人数制限有）。地元の人が気軽に遊びに行けるアットホームな、公民館的役割を果たしているといえる。
- ・体験型のイベントとしては、埴輪は実際に窯跡から5.7kmの道のりをかけて運べるのかという実験考古学を一般の参加者とともに行う予定で、これは当時の古墳造営を体感することを目的としている。また2019年から、ミュージアムを出てすぐの歴史の里にある、西大久手古墳を市民の人を交えて発掘している。
- ・資料室の展示は小学校高学年を対象に漢字にふりがなを付けたり、優しい解説文、子供の高さのイラスト



図15 愛知県内の古墳活用事例2
 (1. 断夫山古墳の解説看板、2. 断夫山古墳近景、3. 志段味大塚古墳、4. 志段味古墳群の解説看板、5. 志段味古墳群におけるVRの様子)

トなど工夫している。さらに、埴輪やその他の出土品より、当時の実際の生活を知りたいという鑑賞者のニーズに合わせ、当時の服装を体験するコーナーや竪穴住居を復元したスペースがある。2階の体験ルームは100人程度収容でき、社会科学見学や歴史講座でも使用されている。2階からは屋外の古墳公園にそのまま行ける設計である。館内はとにかく古墳一色で、ロッカーの鍵のタグから机に至るまで統一され尽くしており、古墳好き特に「古墳女子」と呼ばれる人々には喜ばれるしつらえで、来館者は開放感あふれる明るい施設という印象を受ける。

(2) 愛知・岐阜における古墳活用事例の現地調査

上述の御墳印の取り組みに参加した3つの古墳と岐阜県の昼飯大塚古墳について、活用と復元整備の方法について現地調査を行った。その際先述の各所において直接お話をうかがうことができた。以下その内容をまとめる。

断夫山古墳(図15-1・2) 原則墳丘に立ち入ることはできず、観光目的の公開はされていない。墳丘の上は、大きな木はある程度切られ下草が生えており、ロープ伝いに登ることができるようになっている。



図16 古墳公園の整備事例(1. 青塚古墳近景、2. 青塚古墳遠景、3. 昼飯大塚古墳、4. 昼飯大塚埴輪内部)

墳丘は堀とロープで区切られている。

志段味古墳群（図15-3～5） 名古屋市は、古墳をただ保存するよりも登って身近に感じて欲しいという考えのもと、ミュージアムに併設された歴史の里にある古墳はすべて盛り土をして登ることができるよう整備されている。これは保存と活用のバランスを念頭に置いてのことだという。公園内の古墳はスマホアプリのVR機能で復元された姿を見ることができる。古墳群内の志段味大塚古墳は、葺石、埴輪を全体に並べ、完全復元されている。公園内は地元の人、特に家族連れが多く、良い散歩コースになっている。

青塚古墳（図16-1・2） 地元の人、草が青々とする古墳の景観を守って欲しいという強い要望から、保存が決まった。それまでは地元の人が野焼きを行い、墳丘が見える形で大切に保護してきた。そのため現在では完全復元は行わず、全面が緑に覆われ墳丘の最終段に壺型埴輪の復元が並べられている。公園内は薄い芝生が広がる平坦な広場となっており、主に地元の人が訪れる。

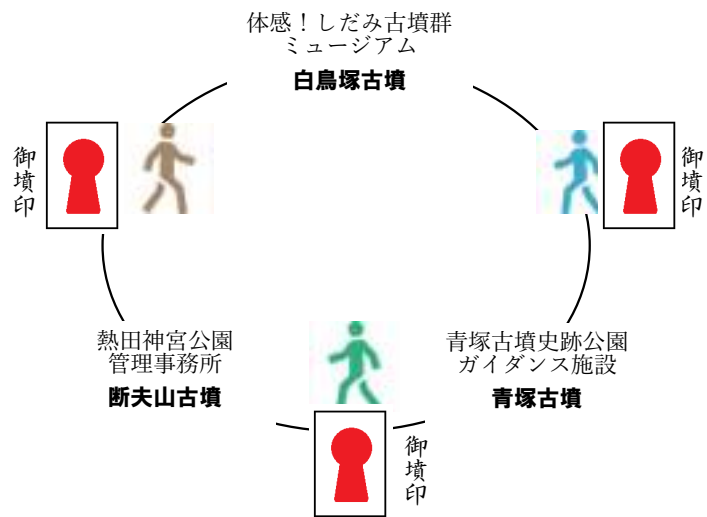
昼飯大塚古墳（図16-3・4） 墳丘は全面完全復元ではなく、一部は葺石や埴輪

で復元されており、その他の面は芝生になっている。復元には地元の小学生が関わったとのことである。埴輪作りや墳丘の復元を行った児童たちは、その技術やスケールを身を以て実感したという。地元の家族連れだけでなく、古墳目当ての観光客の姿もあった。古墳から少し離れているが、大垣市歴史民俗資料館（図17）ではタブレット貸し出しサービスがあり、古墳に持って行くといくつかのスポットでVR体験ができる。

以上のように愛知・岐阜の各古墳の復元形態は、地域の住民や市町村のニーズに基づいて様々な様相となっている。完全復元された志段味大塚古墳は、周囲の再開発で若い人口が増える傾向から教育のニーズに合ったものといえる。一方草が茂る姿での復元がされた青塚古墳は、昔からの古墳に対する思いが反映され、のどかな町の風景に調和したものであると思われる。一部だけを復元した昼飯大塚古墳は、復元のための調査や復元を通じた教育と、公園としての活用の両方を取り入れている。いずれも公園化の整備など、地域の憩いの場としての活用がされており、古墳ブームを根底から支える各地域の地道な取り組みであるといえよう。



図17 大垣市資料館



概念図：愛知県

図18 「御墳印」の流れ

(3) 小 括

体感！しだみ古墳群ミュージアムと古墳ブーム

- ① 2019年4月のオープンに古墳ブームは直接関係ないが、来館のきっかけにはなっただろう
- ② 名古屋ではお城などの文化財ブームがある
- ③ 感染拡大により一時休館し再開後の来場者は前年に比べ減少したが回復傾向にある
- ④ 体験型の展示の一時中止を余儀なくされた
- ⑤ 休館中はYouTubeにガイダンス動画を掲載し、塗り絵をネット上で公開した

御墳印の取り組み

- ① 来館者数の回復を目的に御城印から着想を得た
- ② コロナ禍の外出自粛が続くなかでも古墳とミュージアムを訪れてもらうための戦略
- ③ 2020年9月から愛知県内の大きさベスト3の古墳の隣接施設で販売を開始
- ④ メディア報道やSNSを通して地元の人々の間で話題になった
- ⑤ 3基の古墳は管轄する行政区が異なるが、指定管理者が同系列グループだったため迅速に導入できた（行政側のサポートもあった）

体感！しだみ古墳群ミュージアムと歴史の里

- ① 地元の子どもや若い世代の来館者を想定したアットホームなミュージアム
- ② 有料の展示室以外に無料のキッズスペースや体験ルームがある
- ③ 歴史の里公園内にある古墳の案内板には外国語版の解説にアクセスできるQRコードがある
- ④ アプリを使用して公園内のいくつかのスポットでVRが体験できる
- ⑤ 志段味大塚古墳が完全復元され、墳頂部に登ることができる

2019年には愛知県においても古墳ブームや文化財ブームがあり、日本全体として人々の関心が歴史に集まっていたことがうかがえる。新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、開館したばかりの体感！しだみ古墳群ミュージアムにも及んだが、民間会社の柔軟な発想でフットワーク良く「御墳印」という企画が立ち上げられ実施されたことは大きな成果だった。愛知県内の管轄の異なる古墳を行政区画を超えて活用する取り組みは、今後の文化財の活用において期待される在り方だろう。本来古墳とは当時の地域連合のシンボルとして共有され築造されたモニュメントであるため、それらを繋げて周遊するアイデアはその本質に合致しているかもしれない。また、世界遺産となった百舌鳥・古市古墳群とは異なり、愛知県と岐阜県の古墳はそれぞれの地域のニーズに合わせた活用が行われていることが見て取れ、古墳の活用には多様な在り方が存在することがわかった。

参考ウェブサイト・文献

- ・古墳フェスはにコット：<https://hanicotto.com/>
- ・日本イコモス復元委員会：<http://www.japan-icomos.org/aboutus.html>
- ・世界遺産百舌鳥・古市古墳群HP「百舌鳥・古市古墳群を巡って「MOZU-FURU CARD」を集めよう」：<http://www.mozu-furuichi.jp/jp/visit/mozufuru-card.html>
- ・羽曳野市 (https://www.city.habikino.lg.jp/soshiki/sekaiisan_bunkazai/sekaiisan/mozufuru/56.html)、藤井寺市 (<https://www.city.fujidera.lg.jp/rekishikanko/sekaiisan/mozufuruouentai/1437630273731.html>)
- ・GKP 下水道広報プラットフォーム HP：<http://www.gk-p.jp/mc-qa/>
- ・歴史の里しだみ古墳群「歴史の里の概要」：<https://www.rekishinosato.city.nagoya.jp/about.html>
- ・読売新聞「世界遺産復元待った」2020年7月20日大阪夕刊11頁

第3章 研究のまとめ—古墳の現代的活用と将来展望—

1. 調査結果の総括

ここまで行ってきた各調査の成果について、改めて以下にまとめてみたい。

①マスメディア・書籍・インターネット上の発信

- ・百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録される前後で、古墳が各媒体で盛んに取り上げられたことがわかった
- ・媒体により時期は多少異なるが、登録後次第に注目度は低下した
- ・2020年初めから新型コロナウイルスの影響が各方面で表れ、SNSやYouTubeなどのインターネットを通じた発信が活発になった

②百舌鳥・古市古墳群の実態

- ・世界遺産登録の数年前から古墳ブームを認識しており、2019年以降は特に見学者の増加が著しい
- ・博物館施設や商店は新型コロナウイルスの影響で一時休館・休業したが、その間インターネットを活用したり新たなサービスを始めた
- ・3市の行政は連携して周遊ルートや解説板、紹介冊子、動画などの製作を行い登録推進運動に貢献した
- ・しかしながら3市で異なる方向性の活用が行われており、「百舌鳥・古市古墳群」全体としてのPRが不十分であるように思われた
- ・古墳の本来の特質や観光資源としても活用したい行政と遺産の保護を重視するICOMOSの考え方に乖離が発生している

③愛知県と岐阜県における古墳の活用

- ・愛知県内の3基の古墳を対象とした「御墳印」という新しい企画が人気を集めている
- ・コロナ禍の外出控えで来館者数が減少した博物館や古墳に人々を呼び戻そうと、各機関と柔軟に連携しメディアやSNSを通じて迅速に企画を実行した
- ・地域それぞれの人々と古墳の関係性に基づいて多様な復元・活用の例がみられた

以上のように、世界遺産登録とコロナ禍がもたらした古墳ブームとその変質について追究した結果、古墳ブームの存在が多方面において確認され、世界遺産登録前後に急激にブームが巻き起こったことを明らかにできた。しかしながら、古墳群の登録以降新型コロナウイルスの影響も重なって古墳ブームが薄れつつあることも同時に判明した。そのなかで新たに注目されたものがインターネット上での古墳についての発信・共有であることがわかった。

2. 百舌鳥・古市古墳群における文化財活用の展望

世界遺産登録という出来事は、近年大衆の間で盛り上がっていた古墳ブームを絶やすことなく、さらに発展させる第一歩となった。古墳ブームは、全人類の遺産と認められた百舌鳥・古市古墳群を、恒久に保存・活用されるべき文化財として後世へ伝承する活動に貢献すると考えられる。さらに、その後すぐに発生した新型コロナウイルスの感染拡大というパンデミックは、従来型の活用や発信が不完全であることを明ら

かにし、実際各団体が新たな取り組みを始めるきっかけを作った。本研究を通して、行政を超えた連携の必要性、地域に合った地元の人々を巻き込んだ活用の重要性もみえてきた。SNSやインターネットなどでの発信は、地元・国内だけでなく海外へも古墳群の魅力を届けることができると考える。

活用例の提案 古墳ブームを一過性のものにとどめないためには、愛知・岐阜での地域に根ざしたあり方にみるように、これからも古墳とともに生活をしていく地元の人々、特に将来の世代にとって、古墳を地域アイデンティティの一部とされることが重要であると考える。そしてそのためには、今まで以上に行政区を超えた連携と、地域に合った活用の方法が必要であるという考えに至った。教育面での活用はその方法の1つだと考える。学校の行事に積極的に古墳を取り入れることで幼いころから市民全体が古墳に親しみ、情報を共有することは、希薄になった都市部での人々のつながりを維持するものとして活用できるのではないだろうか。ただ校外学習で古墳を訪れるのもいいが、ICOMOSの方針で復元できない古墳のレプリカを行事として制作する案も一つだろう。また愛知・岐阜の調査から、地元のニーズに合わせた活用法も注目される。百舌鳥・古市古墳群はその特徴の1つとして、街中にあることが挙げられる。街中の緑として、地域住民の憩いの場となる古墳公園の存在をアピールする方向性も、活用法の1つとして検討できると考える。地域住民と古墳の距離を近づけるためには、古墳のビジュアルを活かすことは重要であると考える。実際、愛知県や岐阜県で整備された古墳を見ると、木々が生い茂る古墳よりも存在感があり、より目を引くものであった。生活圏で視界にいつも古墳があるということは、アイデンティティの創出にやはり効果があるのではないだろうか。古墳の活用法の方向性としてもう1つ、古墳を地元の人々と地元以外の人々が共通の話題として楽しみながらブームを継続していくことも重要である。地元の人々が中心となりながら、古墳を介して地域外の人々とも繋がることのできる。こうすることで、古墳ブームを一過性にすることなく持続的な文化財活用が進むと考える。以上のことを踏まえ、最後に、具体的な試案としての活用プランを4つ例示したい。いずれにおいても、現実的な諸問題とのすりあわせは大きな課題になると考えられるが、それぞれのプラン案に内包されるコンセプトは、地域を限らず今後における古墳の活用に有用であると考えている。

活用案①「御墳印」の応用 各古墳において御墳印を設置することは、コロナ禍においても地元の人々に楽しんでもらえる機会となると考えられる。また、御墳印は現在人気の高い御城印を模倣したもので、SNSで注目を集められるデザイン性は、若い世代を含んだ多くの人に人気であるといえる。問題点として、それぞれの古墳に御墳印を販売できる公的な施設がない点があるが、例えば地元の商店と連携することも検討できるのではないだろうか。古墳群の周囲の商店街の店舗に配布を協力してもらうことで、観光客は実際に古墳群とその周辺の観光（古墳グッズや古墳関連スイーツなど）を楽しむことができ、また商店街の活性化にも繋がるだろう。

現在、御墳印の似たような事例として、大阪府と3市が連携して配布している「もずふるカード」や、宮内庁の「御陵印」がある。しかし、もずふるカードは、配布する場所の問題から、参加者が古墳の写真撮ってそれを市役所や観光案内所に見せる、という仕組みになっているため、古墳を訪れたその場で思いついて気軽に参加し形に残すことは少し難しい。魅力的なコンテンツであるだけに配布の方法に検討の余地があると思われる。また宮内庁が提供する御陵印は、ひとつの管区事務所で百舌鳥と古市のすべての陵墓の印を押すため、「古墳群をめぐる」というコンセプトには向かない。これらのことを踏まえ、御墳印の導入は、民間と連携にすることで、地元商店と訪問者の交流により活気を生み出す要素にも繋がるだろうと考える。

活用案②「墳輪グランプリ企画」の発展 堺市・羽曳野市・藤井寺市の3市が足並みを揃え、全国ネッ

トへハニワのグランプリ企画を盛り上げることである。和歌山県立紀伊風土記の丘の HANI-1 選手権（ハニワグランプリ）を皮切りに、今回インタビューを実施した河内こんだハニワの里大蔵屋でも 821GP（埴輪グランプリ）という企画を主催し、3市の市長が揃って優秀作品に市長賞を授与している。コロナ禍では、製作についても郵送を活用できることが実績としてあるため、オンラインでの開催も現実的である。このような企画をさらに盛り上げることで、古墳ブームを地域から全国にまで広げることができると思う。

活用案③「もずふる応援隊」とインターネットの発信強化 羽曳野市・河内氏の個性的な野帳や、愛知県の御墳印は、SNS への投稿が話題となり人気が高まった。古墳や埴輪の造形はまさにアートといえ、かつビジュアルに強く訴えるデザインは SNS に適しており、一目で閲覧者の興味を引くことができる。これらの例に倣い、百舌鳥・古市古墳群の魅力をインターネットを通して発信する活動は今後さらに盛り上がる可能性がある。現在すでに発足している「もずふる応援隊」に 20～30 代の若い参加者を募集し、インフルエンサーとして SNS などでの発信をしてもらうことも有効であるだろう。この案の最大の強みは、一市民として行政区を超えて迅速に連携・活動をできることである。あわせて府内の考古学や歴史を学ぶ大学生が同世代の人々や海外に向けた普及企画を立案するなど、専門的な訓練の場としても大いに活動が期待できる。これまで個別に発信されていた情報も連携したものとなり、受け手のターゲットを絞ることにより、またそれぞれに相応しい古墳情報がより多くの人に的確に届くようになり、宣伝効果が高まると考えられる。

活用案④「古墳群を巡る市民マラソン」の開催 最後はかなり大規模な案であるが、3市の古墳を周るルートを整備し、地域住民がホストとなって盛り上げる市民マラソンを開催することを例示したい。現在、「もずふる古墳マラソン」というものが 2018 年より開催されている。その規模を拡大して行政区を超えた国際マラソン・市民マラソンを実施できれば、ヘリコプターによる上空からの報道で、非常に印象的な古墳の映像を世界に届けることができ、PR 効果も高いと考えられる。上空からの景観を体験することこそ、巨大な古墳の規模や形を理解するのに適している。関西国際空港に降り立つ訪日客からは実際に、眼下に見える鍵穴型の緑色の山がいくつも集中する光景は何なのだろうかという疑問の声を聞いたこともあり、関心はかなり高いと予想される。エジプトのピラミッドを知らない人は少ないが、百舌鳥・古市古墳群の大仙古墳はそれに匹敵する規模であるにも関わらず、まだまだ世界での認知度は低い。定期的な国際マラソンを開催できれば、より広く認知されることができよう。

また国内、地域内の視点でいえば、市民マラソンならではの参加者の古墳コスプレも話題性が期待できる。近年における人々の健康志向から、自宅周辺などをランニングする人が増えている。そして、遺跡を走るというコンセプトは奈良県明日香村が企画する「あすかハーフマラソン」の開催にも表れているように、人々の関心を引きやすいといえるだろう。さらに、古墳マラソンのコンセプトはいわゆる「3K」達成企画ともいえるだろう。2010 年に鳩山由紀夫内閣が提唱した「環境・観光・健康」という「3K」の概念は、今や企業戦略の基礎となっており、国連が掲げる 2030 年までに達成すべき持続可能な開発目標（SDGs）とも密接に関わっているため、古墳と関連させて幅広く参加者を集めることができるだろう。アフターコロナの現地開催を考え、今からオンラインで開催を検討することも可能であると思う。この企画の良い点は、地域住民と外部からの人々が古墳を介して接点を持ち交流することである。文化財が時を超え、まさに国内外の多くの人々を結びつける絆となるだろう。

おわりに

今回、百舌鳥・古市古墳群を中心として、世界遺産登録とコロナ禍が古墳ブームへ与えた影響を調査するなかで改めて古墳ブームの価値を認識し、今後の古墳ブームの維持拡大の重要性と責任を痛感した。また、遺産の保存を重視する ICOMOS との認識の乖離は、古墳というものの特性を十分配慮し必要最低限の手を加えることについて理解を促し、解決していく努力が必要だと感じた。日本の古墳が全人類の遺産として世界に認識されたということは、文化を超えて互いを認め合い共に平和な世界を構築していこうとする人々の意識の表れだと考えられる。その意味においても本研究が今後の活用を検討する上でささやかながら一助となれば幸いである。



図 19 市民マラソン イメージボード
イラスト：刘香盈氏（大阪大学外国語学部）

「令和2年度 学部学生による自主研究奨励事業」研究成果報告書
世界遺産登録およびコロナ禍をもたらす“古墳ブーム”の変化と文化財活用の将来像

2022年11月 発行

編集・発行 大阪大学大学院文学研究科考古学研究室

令和2年度学部学生自主研究グループ（石束 礼・松岡寿々代）

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5

